

# 彦根藩医 河村純碩・純達 関連年表

西暦（元号）年	将軍	藩主	出来事	
1790(寛政2)	1787	1789 直	幕府、聖堂での朱子学以外の学究を禁止する（寛政異学の禁） 各藩での藩校設立がさかんになる	
1799(寛政11)			家 中	<u>藩校稽古館の設立</u> <u>国産方を設置し、国産の奨励・専売政策をすすめる</u>
1805(文化2)				華岡青洲、日本で初めて麻酔剤を用いて乳癌を手術
1822(文政5)	齊	1812	西日本でコレラ流行 異国船打払令が出される	
1825(文政8)				
1830(天保元)	1837	直	<u>藩校稽古館を弘道館と改め、学制改革がはじまる</u> 天保の大飢饉（1833～1839）	
1839(天保10)			幕府、渡辺華山・高野長英を処罰する（蛮社の獄）	
1841(天保12)		家 亮	老中・水野忠邦、天保の改革をはじめる <b>&lt;純碩&gt; 2人扶持を仰せ付けられる（注1）</b>	
1844(弘化元)			<b>&lt;純碩&gt; 江戸での御用を仰せつかり、苗字帯刀御免となる</b>	
1845(弘化2)			<b>「御医師並」に取り立てられる</b> <b>江戸において銀7枚を下し置かれる</b>	
1846(弘化3)			<b>&lt;純碩&gt; 10人扶持となり、「一代切奥御医師」となる</b>	
1847(弘化4)		慶	1850	<u>直亮、幕府より相州（神奈川）警備を命ぜられる</u> <b>&lt;純碩&gt; 新たな知行地として30石を下し置かれる（注2）</b>
1850(嘉永3)				<u>直亮、病死（殿様御容體日々備忘録）</u> <b>&lt;純碩&gt; 天徳院様（12代藩主・直亮）の遺志により御金を下し置かれる</b> <b>&lt;純碩&gt; 小山弥五兵衛（彦根藩士）の屋敷跡を下し置かれる</b>
1852(嘉永5)		1853	直	ペリー、浦賀に来航 日米和親条約の締結（鎖国を解く）
1853(嘉永6)				<b>&lt;純達&gt; 相州において召し出される（26俵4人扶持）</b>
1854(嘉永7)	<b>&lt;純達&gt; 異国船渡来時の精勤に対し褒美金を下し置かれる</b>			
1856(安政3)	定	1858	アメリカ総領事ハリス、下田に来る 伊東玄朴、種痘所設置を幕府に求める	
1857(安政4)			<u>4月23日 直弼、大老職に就く</u>	
1858(安政5)			種痘所設置 同年、日本全国でコレラ大流行 6月19日 日米修好通商条約の締結（貿易を再開する） 安政の大獄はじまる	
1860(安政7)	家 茂	直弼	<b>&lt;純碩&gt; 江戸での精勤に対する褒美として20石加増となる</b> <u>3月3日 桜田門外で大老・井伊直弼暗殺される（桜田門外の変）</u> 幕府、公武合体運動をすすめ、皇女和宮の降嫁を要請する 攘夷運動がさかんとなり、薩英戦争・下関戦争おこる	

1860(万延元) 1862(文久2)	家	1860	<p>&lt;純達&gt; 江戸において出仕遅、指控の処罰を受ける(同月に許される)</p> <p><u>桜田門事件のため藩領10万石を減封される</u></p> <p>&lt;純達&gt; 養父純碩加増に関連して40俵4人扶持を下し置かれる</p> <p>&lt;純碩&gt; 病死</p> <p>&lt;純達&gt; 養父純碩病死のため、跡を継いで50石を下し置かれる</p>
1863(文久3)			茂
1866(慶応2)	慶喜	1866	<p><u>彦根藩の京都守護職を免じ、会津藩主・松平容保に命じる</u></p> <p>&lt;純達&gt; 京都の動乱に際して出張し、御金を下し置かれる</p> <p>薩長同盟が成立し、倒幕へむかう</p>
1867(慶応3)			<p>将軍・慶喜、大政奉還を行い、朝廷は王政復古の号令を出す</p> <p>戊辰戦争おこる 彦根藩、佐幕論をおさえ官軍につく</p>
1868(明治元) 1869(明治2)	憲	憲	<p>五箇条の御誓文発布される</p> <p>&lt;純達&gt; 藩医の任を解かれ、「七等家執事御医師」となる</p> <p>&lt;純達&gt; 「七等家家従下等医師」となる</p> <p>&lt;純達&gt; 「下等医師」から「中等医師」へ呼称変更となる</p> <p>&lt;純達&gt; 医学会頭御免となる</p>
1871(明治4)			<p>版籍奉還がおこなわれる 直憲、彦根藩知事となる</p> <p>廃藩置県がおこなわれる 彦根藩廃止され、彦根県を設置</p>

注1: 「～人扶持」は藩から給与としてもらうお米(1人扶持=1日玄米5合)の量

注2: 「～石」は藩から給与として与えられる知行地(年貢を徴収できる土地)の大きさ

\*本年表は次の文献に拠った。

①海原亮「彦根藩医学寮の設立と藩医中・藩医河村氏の記録から」論集きんせい 23号 pp.43-63 2001

特にp.44掲載の[表1]河村氏の事績(出典:『彦根藩井伊家文書』「医者由緒帳」)

②彦根城博物館編『彦根の歴史:ガイドブック』pp.36-37 2001



彦根城 (撮影:河村達郎)